

伊丹市 文化財ボランティアの会

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課内 (伊丹市千僧1-1-1)



INDEX

▶ 史跡ガイドレポート

- ① 第3回体験型地域プログラム『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感 開催 ----- P 1
- ② 第4回体験型地域プログラム『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感 開催 ----- P 2
- ③ 令和7年度いたみ歴史散歩
西国街道を歩く第一回「寺本村から昆陽村の歴史を辿る」 ----- P 3
- ④ 御仏の優しき笑みに癒やされて～慈眼寺定点ガイド体験記～ ----- P 4

▶ 講演活動報告

- 県立伊丹高校 地域探求講演会 ----- P 5

▶ 研修サロン班活動報告

- 伊丹旧村めぐり 「寺本村」 ----- P 6

▶ 町の小さな文化財 第30回『池尻の首塚』義民伝説 - ----- P 7

▶ 学習支援班活動報告 ----- P 8

- ① 久々の大入り満員! ことば蔵

- ② いたみ民話会公演 神津こども園

▶ 令和7年度 市民ガイド 次回は12月20日(土)を予定しております ----- P 9

▶ 令和7年8月～10月活動記録 ----- P 9

▶ 令和7年11月～令和8年1月活動予定 ----- P10

▶ 伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内 ----- P10

▶ 伊丹市文化財ボランティアガイド養成講座のご案内 ----- P11

第3回 体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」を開催

7月12日（土）、伊丹市空港・にぎわい課主催『ひょうごフィールドパビリオン「清酒発祥の地 伊丹」五感で体感ツアー』の第3回目が開催されました。『広報伊丹』等の募集に応じて、定員の10名の方が参加されました。

参加者の顔ぶれをみると、40代前後の男女ペア1組及び女性ペア1組の4名参加で、全体として平均年齢が低いと感じました。また、第30回文化財ボランティア養成講座受講者（未入会）もご夫人同伴で参加され、スタート前から話が弾みました。

主催者の市職員の到着がいつもより遅れ、開始前に少し混乱があったものの、最終的には参加者10名、主催者側3名、ボランティア会員2名の15名で、定刻の午前10時30分に無事スタートとなりました。厳しい暑さが予想されるため、主催者から水分の持参の確認があり、あわてて買いに走る参加者もいらっしゃいました。

主催者側の紹介により、本日のガイドを務めます当会会員から、本日のテーマを『城下町から酒造りの町へ』とするとの宣言があり、併せて当日のスケジュール概要と見学コースの説明がありました。

テーマである『城下町』について説明するため、カリオン塔前の藤棚へ移動。参加者全員に、日陰となる藤棚下のベンチへの着席を勧めたうえで、惣構・石垣・庭園遺構及び藤棚と黒田官兵衛等有岡城跡にまつわるエピソードを説明していたところ（右写真）、季節はずれの藤の花が少し咲いて、その場を盛り上げているようでした。



次の見学スポット・大溝跡に移動。次なるテーマ『酒造りの町へ』について説明が行われました（右写真）。この時点では、暑さはそれほどではなかったように思います。大溝跡の説明では、発掘調査直後の大溝跡の写真に、顔を折り寄せる感じで見入っておられる方もいました。また、「伊丹郷町」の説明では、うんうんと頷いて聴いておられるようでした。



産業道路を渡り、長寿蔵の前では、壁の横断幕を見ながら、日本遺産を説明。伊丹老松酒造については、場所の確認及び説明は直射日光を避けて旧岡田家住宅にて行う旨伝え、旧岡田家住宅・酒蔵に向かいました。伊丹老松酒造前の三軒寺広場の工事騒音で、説明しても聴取不能の状態のための緊急の措置でした。

旧岡田家住宅・酒蔵では、入口前の道路にて、建物外観の特徴及び旧石橋家住宅との比較を聴いていただきました。旧岡田家住宅の館内では、先ず下店の説明版の前で、国の重要文化財であること、所有者の変遷・銘柄の説明及び近衛家の酒造りへの庇護についての説明がありました。暖簾を潜って、土間・洗い場・釜屋・棟札等、一つ一つ時間をかけての説明を聴いていただきました（右写真）。西宮から、参加されている男性は、最近「日本酒」の研究をしているとのことで、興味深げに聴いておられました。



酒蔵で、約5分の「日本遺産」のビデオを観ていただき、先ほど説明できなかった小西酒造及び伊丹老松酒造の歴史等について聴いていただきました。次に、店舗部分の3つの解説ブースにて（①清酒発祥の地②伊丹酒江戸へゆく③江戸で愛された「丹釀（たんじょう）」）、それぞれの説

明を聴いていただきました。

最後に、長寿蔵ミュージアムにて、江戸時代の酒造りを展示してある実際の道具の前での説明がありました。ガイド終了宣言後、参加者から一斉に温かい拍手が起こりました。

本日は、ボランティア会員 2 名も昼食会に参加する予定になっており、2階のパーティー会場に移動。貸し切りの状態で、周りのお客様を気にすることもなく、ホッとした感じで席に着きました。既にテーブルには、『KONISHI 厳選飲み比べ5種セット』のプレートが置いてあり、左の「白雪諸白（もろはく）」から順次運ばれてきました。と同時に、日本酒のマリアージュ料理も運ばれてきました。話題は、本日のガイドに関しての質問から始まり、日本酒醸造に関する詳細に関する質問が出て、再度ファイルを取り出しての補講を行った次第です。お酒が進む中、雰囲気も盛り上がり、ボランティアの会の活動についての質問もあり、ホームページの紹介、最後は入会勧誘にまで話が盛り上がりました。ガイド後の双方向の情報交換も必要だなと感じました。日頃、日本酒を嗜まない筆者も、美味しくいただき、ほろ酔い加減で帰路につきました。

（山下 記）

史跡ガイドレポート ② 令和7年9月21日

第4回 体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」を開催

9月21日（日）、伊丹市空港・にぎわい課主催『ひょうごフィールドパビリオン「清酒発祥の地 伊丹」五感で体感ツアー』の第4回目が開催された。

本日のガイド担当は当会の若きエース会員。参加者は4名（男性2名、女性2名）。暑さのせい、開催間近になって2名のキャンセルがあったようです。受付を終えた若い女性2名が筆者のほうへ寄って来て「前回はお世話になりました」と挨拶。一瞬、（どちら様？）と思ったのだが、見覚えのある顔だった。7月12日のツアーに参加した女性の二人連れで、その時ガイドを務めた筆者に敬意を表したものだ。「お二人とも、あまりお酒を飲まないとのことでしたが、日本酒に目覚めたのではないですか？」と訊ねると、二人ともこっくりと肯いた。男性は二人とも20代で、うち一人は大学生。卒業論文で今回のようなまちづくり活動をテーマにしているとのことだった。

全員揃ったので、午前10時30分より少し早めの開始となった。物産ギャラリーの前で、本日の見学コースが大溝跡、長寿蔵、老松酒造、岡田家住宅、長寿蔵ミュージアムであると説明後に、スタートした。

有岡城跡を右手に見ながら歩く。最初のガイドスポットは大溝跡。日を遮るものがなく、背中に日差しを受けながらのカチカチ山状態で、有岡城から伊丹郷町へ引き継がれた酒造と在郷町の形成段階についての説明を聞いた。

長寿蔵の前では、小西酒造の歴史、銘酒白雪と頼山陽のエピソードの紹介があり（右写真）、さらに老松酒造の前では、老松酒造の歴史、御酒屋・御免酒等の話を聴いて、岡田家住宅に移動した。

まずは岡田家と石橋家の外観を眺めながら、江戸時代の町屋の特徴、岡田家館内では、下店、店の間、中の間、次の間、奥の間の順に見学し、井戸の前では伊丹の水の特徴、窯場では竈について、さらに酒造道具についても説明を聞いた。（右写真）

石橋家の縁側で、日本庭園の作庭、頼山陽の柿のエ



ピソードなどに関する説明の後、岡田家酒蔵に戻り、酒槽の構造などについて案内を受けた。酒蔵のスクリーンに映し出される日本遺産「伊丹諸白」と「灘の生一本」に関するビデオを視聴した。

長寿蔵 2 階に展示の酒造道具を見学して、午後 12 時 15 分ごろ、「五感で体感ツアー」は参加者全員満足の笑顔のうちに大団円となった。参加者 4 名と少数精鋭のなか、若き会員の丁寧なガイドに耳を傾けながら、参加者との交流も十分に楽しめたツアーだった。（末次 記）

＊この体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」は、5 月から 10 月の期間で 5 回の開催が予定されていました。5 回目の開催は 11 月 29 日（土）で、すでに定員満員となり募集が締め切られています。（編集 記）

史跡ガイドレポート ③ 令和7年9月27日

令和7年度いたみ歴史散歩

西国街道を歩く第一回「寺本村から昆陽村の歴史を辿る」

① 昆陽寺（右写真）

前身は昆陽布施屋であるとの説明に始まり、天平～江戸時代の歴史が紹介され、山門、鐘楼、瑠璃殿、後醍醐帝歌碑、観音堂、開山堂、行基歌碑、行基塚と巡り、僧行基の人柄が偲ばれた。



② 正覚院

山門で「塔頭」「薬医門」の説明があり、境内にある夏目甕麿（みかまろ）の墓前では幕末の国学者と伊丹の縁を知る機会を得た。

③ 加納諸平（かのうもろひら）・伴林光平（ともばやしみつひら）歌碑

甕麿の子息と弟子、各々の甕麿を慕う情が伝わった。

④ 西国街道・関伽井（あかい）

梵語で「水」を意味する「関伽（あか）」が、疱瘡（ほうそう）に靈験あらたかとして「摂津名所図絵」に紹介されていたと云う解説に興味を引かれた。

⑤ 昆陽村西の庚申さん（右写真）

庚申講は中国の道教信仰に基づいており、昆陽の北と東にも祭所があるが、南が未確認との情報に参加者の関心が示された。



⑥ 長勢橋（ちょうぜいばし）の碑

幕末、蛤御門の変の際に敗走した長州勢の抗戦、駅の機能を担っていた昆陽宿が武器輸送に利用されようとした等の史実が語られ、皆、引き込まれて熱心に聴き入っていた。

⑦ 稲野村道路元標（右写真）

西国街道と有馬道の交差点に位置し、高札場が設けられていたと云う解説に当時の宿場の賑わいが思い浮かんだ。

⑧ 東天神社

鳥居前の道標、境内の由緒書、楠の御神木（推定樹齢約 500 年）西行歌碑、北の庚申祭所を巡って解説が行われた。御祭神イザナギノミコト・イザナミノミコトに寄せる人々の篤い信仰心、また行基の猪名野開拓事業達成祈願所であったと云う史実により、当社の大きな存在が認識できた。



⑨稲野小学校前の道標

道標の四面に刻まれた「すぐ～」は「まっすぐ行くと…」の意味であるとの説明に、多くの参加者が納得の反応を示した。能因法師の歌碑には、いにしえ人の旅情が窺えた。

⑩首切り地藏

無礼討ちに遭った幼子の悲話に痛みを覚えた。堂内には東の庚申さんも祀られ、脇には鴨長明の歌碑が立つ。ひっそりした佇まいながら、昆陽の歴史をよく物語る史跡であることが理解できた。

当日は好天に恵まれ、途中汗ばむほどであったが、担当者全員が丁寧なガイドを実施し、無事に全行程を終えることができた。参加者の皆さんにも有意義な半日を体験して頂けたものと思う。

最後に「参加者からの拍手が最高の評価かな」という会長の問いかけに対し、参加者に拍手をお願いし、29期の今回の新人ガイド担当者に「ガイド免許皆伝」が出る結果となった。「これからは自信を持ってガイドしてください」という会長の励ましとともに。

(久保田 記)

史跡ガイドレポート ④ 令和7年10月12日～13日

御仏の優しき笑みに癒やされて～慈眼寺定点ガイド体験記～

鴻池では10月12日(日)と13日(月・祝)の「鴻池神社秋祭り」にあわせて、「きらら秋の鴻池スタンプラリー」が開催されました。小学生から一般までを対象に、きららホールをスタートして自由に6か所(「鴻池稲荷詩碑」「慈眼寺(じげんじ)」「鴻池神社」「清酒発祥の地碑」「力士塚」「庚申塚」)を巡り、スタンプまたはシールを集め、きららホールへ持っていくと参加賞がもらえるという趣向。

普段は非公開の「木製釈迦如来坐像」(慈眼寺所蔵、国の重要文化財)が両日とも13:30～15:30に公開されることが、ラリーの目玉となっていました。同寺境内には清酒(透明の酒)を造ったと伝わる「山中新六幸元」とその妻の墓もあることもポイントの一つでした。今回はきららホールからの依頼を受けて、午後1時30分から3時30分まで慈眼寺に待機し、スタンプラリーの訪問者に対して、慈眼寺と釈迦如来坐像のガイドを行ったものです。

10月12日(日)午後1時過ぎ、筆者が鴻池慈眼寺に到着すると、本日のガイドである当会会長と近隣在住の会員が、本堂前にて主催者きららホールの担当者と談笑中。丁重にご挨拶を済ませた後、住職の奥様にもご挨拶。本堂に入り、国指定の重要文化財「木造釈迦如来坐像」に合掌。そして、許しをいただき、写真に収めました。続いて、住職の奥様にお願いして、山中家の4基あるという位牌を別室にて拝見させていただきました。位牌名に「一翁宗圓居士(いちおうそうえんこじ)」を見つけた時は、思わず「これだ!」と大きな声を上げてしまいました。そうこうしていると予定の時間になり、会長は本堂での説明、筆者は山門前にて来場者を待つ体制を取りました。少しして、先ず子供連れのご夫婦が到着。子供は小学3年生とのこと。説明の許可を得て、先ずは、山門前の石塔「不許葦酒入山門(くんしゅさんもんにいるをゆるさず)」から説明を始めたところ、奥様が「お願いします。」と



筆者に頭を下げると、子供までが頭を下げた挨拶してくれました。その後、慈眼寺と木造釈迦如来坐像の説明を行い、次に「山中家の墓塔・墓碑」に移動して説明しました。ご主人が大阪での鴻池財閥のことを知っていることもあり、「へえ、そうなんだ！」と感慨深げに聴いておられました。

スタンプラリーということもあり、今回は、小学生の子供連れの来訪者も何組か来られました。この日は、途中少し雨が降り、台風の関係か少し蒸し暑い陽気でした。

10月13日（月）、昨日同様、午後一時過ぎに到着。主催者のきららホール館長にご挨拶。この日は、昨日に比べて爽やかな秋晴れの気候で、鴻池神社のだんじりの音も聞こえ、気分を高揚させてくれました。

まずは、本堂にて「木造釈迦如来坐像」に頭を下げ合掌。その後、山門前にて、来訪者を待つ体制を取りました。この日は、近隣の住民数人が、スタンプラリーとは関係なく、日頃拝めない仏様を拝めるとのことです。また、昨日同様子供連れのファミリーが数組訪れました。午後3時ごろのこと、中高年のご夫妻が慌てて山門を急いで潜り、「スタンプは午前中に押したので、最後に木造釈迦如来坐像を拝みたい」と、筆者の説明を振り切る形で本堂に向かいましたが、途中、会長と一言二言交わして、木造釈迦如来座像の説明板まで戻ってきて熱心に説明を聴いていました。その後、釈迦如来坐像を拝んだ後、何と「山中家」の墓碑の説明も質問付きで聴かれたとのこと。山門にて、筆者と擦れ違いざまに挨拶したところ、ご夫妻二人とも笑顔で、満足顔で帰っていかれました。この日の来訪者は35人。

帰り支度をしていた時、市中を練り回してきただんじりが、隣の鴻池神社に戻るところでした。子供たちの「わっしょい、わっしょい！」という歓声に、ガイドを担当した我々も浮き立つ気分になったものです。御仏の優しき微笑みに癒やされ、さまざまな年齢層の来訪者との出会い・触れ合い・語り合いを楽しんだ2日間でした。

来訪者案内活動にご協力いただいた住職ご夫人、主催者の方々に謝意を表して、慈眼寺を後にした次第です。

（山下記・末次一部追記）



講演活動報告 令和7年9月25日

県立伊丹高校 地域探求講演会

あれは2か月ほど前のことでした。県立伊丹高校では、2学期に8時間程度を使って「地域にある課題を見つけ、その解決法を考える」という探求型の授業を実施します。地域貢献している団体として、伊丹市文化財ボランティアの会あてに、会の活動内容や地域社会への貢献、今取り組んでいる課題（もしくはこれから解決したい課題）について、生徒に話して欲しいとの依頼があったのです。日程調整の結果、9月25日（木）に同校生徒向けに話をすることとなりました。

同日午後1時半、当会会長と同行会員2名が伝統ある同校校門をくぐりました。玄関での受付を済ませ、待っていると今回の担当教諭が玄関口に姿を現しました。応接室へ案内され、同教諭より、本日の講演の主旨等に関してのお話がありました。また、同教諭にて事前に用意した米澤穂信（よねざわほのぶ）著「黒牢城」（166回直木賞受賞作品）の一文を授業の始めに配布されま

した。今回の受講者は、GLiS 類型 1 年 1 組の生徒 40 名で、まだまだ幼いとの話あり。来年 2 月に今回の「サイエンス X 探究 I」の最終発表時に来校の依頼がありました。応える形で、当会会長より講演内容についての概要説明を行いました。

※GLiS 類型：「兵庫県内の高校で行われている「Global Learning in School（グローバル・ラーニング・イン・スクール）」の略称で、英語を中心とした国際理解教育の一環として、各学校が独自のプログラムを展開している。

県立伊丹高校では、特色選抜入試で合格した生徒は 1 年時のみ GLiS 類型クラスに所属。2 年時以降のクラスは一般クラスと混合で、人文社会類型（文系）、もしくは自然科学類型（理系）に分かれる。

講演会場の教室は 4 階で、向かう間も、擦れ違う生徒に「こんにちは」の挨拶を受ける等甚だ感心するばかり。授業の冒頭、担当教諭より、「黒牢城」のコピー配布、黙読の指示後、伊丹での国指定の史跡の話がありましたが、「伊丹廃寺跡」のことを、ほとんどの生徒が知りませんでした。

当会会長の講演では、いきなり 4 年間の高校生活の話から始まり、生徒（先生も）の目が釘付けになり、反って後の講演に集中することとなりました。留年した訳ではなく、アメリカ高校留学で、4 年間で 2 つの高校を卒業したとの種明かしがありました。

まずは、伊丹市文化財ボランティアの会と地域貢献活動（文化財ガイド活動）を紹介し、次に解決したい課題（会員数減少問題・ジュニア事業部門の拡充）と「高校生の皆様に考えていただきたい課題」について話しました。さらには、地域貢献について学ぶには、座学だけでは足りず、文化財ボランティアの会と共に活動してみよう、と呼びかけたのです。

会の活動と課題の 2 点についての話が終わると、後半はそれを敷衍して①伊丹の歴史と文化財概要②文化財と文化財保護法③文化財の体系図④伊丹市における指定文化財一覧と、特に、県立伊丹高校生身近な史跡「伊丹廃寺跡」の詳細について解説がありました。

最後に、質疑応答があり、ボランティアの会を立ち上げた時の動機、一番好きな史跡は等など 5 人ほどの生徒の質問があり、会長が丁寧に、かつ面白く回答いたしました。

同行の会員と筆者は、部屋の後方にて講演を拝聴いたしましたが、あっという間の 1 時間で、一生懸命メモをとる生徒等が目立ち、今回の講演の意義が生徒にも伝わっていると確信しました。また、併せて自分の高校生時代と比較して、レベルの高い生徒たちとの印象を受けました。終了後、会員に今回のような活動をしたいと話しかけてくる生徒もいました。

県立伊丹高校を訪問した 3 人、終了後も清々しい気持ちで、高校生と共に地域貢献活動ができることを願いつつ、校門を後にしました。（山下 記）

研修サロン班活動報告 令和 7 年 10 月 16 日

伊丹旧村めぐり 「寺本村」

10 月 16 日（木）午前 9 時 30 分、雨の降る中、昆陽里イズミヤ前に 14 名が集合しました。今回は、通常ガイドではあまり訪れない旧寺本村の国道 171 号線の北側を中心に巡る研修活動です。以下、印象に残ったことがらを思いつくままに書きます。

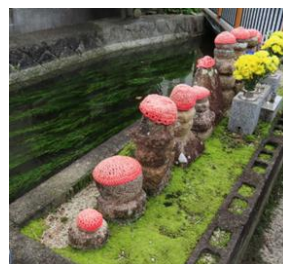
旧街道の交差点 このあたりは西国街道・有馬道・能勢妙見に向かう行基道の交差点にあたりま

す。その道標を巡りながら歩くと、旧街道らしい緩やかな曲線の道に、寺本村・昆陽寺が囲まれていることがわかります。すぐ西には勢いよく澄んだ流れの昆陽井（江戸時代からの用水）もあり、この地区の歴史の深さを道や流れからも実感しました。

昆陽寺あたりいろいろ ガイドコースから離れるため普段はあまり訪れない2つの塔頭（一乗院、遍照院）、寺本猪名野神社を巡りました。いずれも地元の人々に今も強く信仰されていることを感じます。昆陽寺では、普段あまり注目されない石造物、民間信仰のお堂、乃木大将記念碑を見ました。民間の方が建てられている魚やすっぽんの供養のための魚鰐群霊供養所、無縁墓と一緒に置かれている立派な乃木大将記念碑にはいろいろな思いを巡らせました。

あまり行かない西国街道 昆陽寺の少し東の西国街道は171号線に分断されているため、普段のガイドコースでは通らないことが多い。その171号線北側の西国街道にあたる寺本商店街は、建物の隙間にある屋根付きの商店街ですが、通常の商店街と違い、旧街道らしい曲線の道になっています。今は近辺の大型スーパーの影響もあり、営業する店舗も少なくなっているようです。近代になっても直接的に生活に関わってきた街道の様子を示す例と感じました。最後に、鎮守の森がうっそうと茂る西天神社で解散しました。

雨は出発後なんとか上がり、暑さもようやく和らいだなかでの散策でした。通常のガイド活動では触れられない昆陽寺・西国街道周辺の気になるポイントを巡り、今後の活動を豊かにするいろいろな知識が得られた有意義な屋外研修でした。（岩崎 記）



町の小さな文化財 第30回

「池尻の首塚」義民伝説 池尻3丁目



池尻の市杵嶋姫（いしきしまひめ）社北側を流れる昆陽井の下流側対岸に庚申塚がある。庚申塚のさらに下流側の住宅間の敷地にこじんまりとした首塚の石碑がある。表には「池光院清風永照居士菩提」、裏面には「昭和 45 年建立」と刻まれている。伊丹市内では数少ない義民伝説を伝える石碑である。

『伊丹の伝説 付有岡古続語』には以下の記述がある。「池尻は村を流れる昆陽井から取水する権利を持たなかった。有る年旱魃で稲が枯れ死に寸前になり、或人が犠牲になる覚悟で首が入る程の穴を掘り、井から水を取り入れた。この人は処刑されたが墓碑が昭和 45 年に建立された。これにより村は大いに助かった」。池尻は当初から昆陽井の井組に加わっており、取水の権利を持たなかったことはないの、この記述には疑問が残る。

また社会科資料で「池尻小学校区の昔さがし」の一つとして首塚を取り上げている・・・江戸時代初期に下池干拓に伴う水利の代替えを申請し許可されたが、申請した代表者が処刑されたと

伝えられている義民の首塚です。・・・

『伊丹古絵図集成（本編）伊丹資料叢書6』によると、昆陽下池の埋め立てに際して、昆陽村・池尻村の両村（幕府領）を預かっていた片桐貞隆（大和小泉藩）は下池の水利の代替えとして昆陽井を分水する措置をとったと記載されている。

昆陽井を分水する案を片桐貞隆に申請した人々がおり、その代表者は処刑されたが、代替え案は採用され、実行されたと解釈すれば矛盾はない。（松田 記）

学習支援班活動報告 ① 令和7年8月21日

久々の大入り満員！ ことば蔵

8月21日（木）ことば蔵にて、デジタル紙芝居と工作の活動を行いました。

ラジオ体操後の積極的な声掛けのおかげもあって大人数の参加がありました。紙芝居は42人の参加がありました。演題は、伊丹坂のすもう狸、三軒寺の砂かけ狸。演者にとって幾度となく演じている演題であり、また、久々の大入りのこともありいつも以上に感情をこめて余裕をもって演じているように感じました。おかげさまで、終演と共に久々に拍手を頂きました。



デジタル紙芝居後に、綱登り人形の工作を行いました。工作も子供定員20名に対し子供19名、保護者10名とこれまた大入りでした。子供たちの純粋でキラキラした目を輝かして、一生懸命工作に取り組んでいる姿に、今回の工作においては会員が手を加える箇所が多かったにもかかわらず、皆時間を忘れて対応しました。



完成品を試行して、満面に笑みを浮かべている子供たちを見て会員の疲れも吹っ飛んだように感じました。これからも、今回のような有意義な活動を行っていきたく思います。（橋本 記）

学習支援班活動報告 ② 令和7年9月19日

いたみ民話会公演 神津こども園

9月19日（金）10時、神津こども園。先方のご要望で“デジタル紙芝居”と“昔ながらの紙芝居”の両方を行いました。昨年に続いての公演です。年長さん40名、当会は7人で訪問しました。

最初にデジタル紙芝居「すもう狸」の予定でしたが、なんと！トラブルが発生。何度もパソコンの画面が消えてしまいます。急遽、紙芝居「野間の一本松のいたずら狐」を先に演じることに。



伊丹の産物の絵を見て「お米」等声を出します。さあ、始めました！狐たちの絵を一生懸命にみています。終わるころにはパソコンも復旧。（たまたまプロジェクターのアップデートが始まったトラブルでした！）デジタル紙芝居「すもう狸」もお相撲さんが出てきた時には「お相撲さんだ！」との声も上がりました。



最後に沢山の感想をいただきました。「お相撲さんが面白かった」「全部面白かった」「お地蔵さんが面白かった」とお褒めの言葉。紙芝居のお礼にと「みんな大好き」「山の音楽家」を元気いっぱい歌ってくれました。

紙芝居とデジタル紙芝居では、紙芝居が珍しいのかと思っていましたが、デジタル紙芝居のペーパースートから取った動きが、初めてでとても面白かったそうです。今の子供たちはアニメーションの動きに慣れているので新鮮だったとか。

今回も子供たちの楽しそうな様子に沢山の元気を貰いました。

(妹尾 記)

令和7年度市民ガイド、次回は12月20日(土)を予定しております。

本年度市民ガイドは、伊丹市内の西国街道を3回に分けて開催しております。

第1回「西国街道南」、第2回「西国街道西」は盛況のうちに終えることができました。

第3回は、12月20日(土)「西国街道北を辿る」として開催を予定しております。

詳細は、当会ホームページ及び12月1日号の「広報いたみ」をご覧ください。

*上記の予定は予告なく変更する場合があります。ご了承下さい。

活動記録(令和7年8月～10月)

【定例会】8/12(火)・9/9(火)・10/14(火)

【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加人数]

9/13(土)[三軒寺、旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅、18人]、

9/21(日)[清酒発祥の地・伊丹、4人]、

9/27(土)[第1回市民ガイド、14人]

10/10(金)[伊丹郷町、10人]、

10/12(日)10/13(月・祝)[慈眼寺、各25人]

10/17(金)[旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅、13人]、

10/25(土)[旧荒牧村巡り、25人]、[第2回市民ガイド、16人]

【研修サロン班】8/7(木)勉強会「豊臣大坂城下町を探る」

9/4(木)勉強会「難波宮跡を歩く」、

9/18(木)屋外研修「難波宮跡公園、大阪歴史博物館見学」

10/2(木)勉強会[寺本村]

10/16(木)屋外研修「寺本村」

【学習支援班】例会：8/19(水)、9/17(水)、10/15(水)

対外活動：8/21(日)ことば蔵(デジタル紙芝居・工作)

9/19(金)神津こども園(デジタル紙芝居・紙芝居)

9/26(金)荒村寺まちカフェ(デジタル紙芝居・ペンケース作製)

【ガイド勉強会】

10/28(火)市南部コース 座学

今後の予定（令和7年11月～令和8年1月）

【定例会】11/18（火）・12/9（火）・1/12（火）

【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加人数]

11/ 6（土）[伊丹郷町、30名]、

11/ 9（日）[市南部、30名]

11/16（日）[伊丹郷町、各30名（午前、午後）]、

11/20（木）[伊丹郷町、15名（午前）、25名（午後）]、

11/22（土）[伊丹郷町、10名]、

11/27（木）[伊丹郷町25名]、

11/29（土）[清酒発祥の地・伊丹、12名]、

12/13（土）[伊丹郷町、40名]、

【市民ガイド】

12/20（土）「第3回市民ガイド 西国街道北、15名」

【伊丹市文化財ボランティア養成講座 史跡めぐり】

11/22（土）（伊丹廃寺～猪名野神社～市立伊丹ミュージアム

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】

9月13日から11月30日まで実施予定

【研修サロン班】

11/13（木）勉強会「天満 大塩平八郎と伊丹」

12/ 4（木）屋外研修「天満 大塩平八郎と伊丹」

【学習支援班】例 会：11/19（水）、12/16（火）、1/20（火）

対外活動：11/30（日）神津福祉センター フライベント（デジタル紙芝居）

12/10（水）わかばこども園（デジタル紙芝居）

伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財（史跡）のガイドをご希望される方は、申込書に必要事項をご記入の上、下記へお申し込みください。

*申込書は右の2次元バーコードよりダウンロードして下さい。

◇申込書をファックスまたはご持参の場合

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当へご持参いただくか、ファックスで送信願います。

☎：072-784-8090 FAX 072-784-8048

◇申込書をメール送信の場合

文化財ボランティアの会にメール（ibunbora@yahoo.co.jp）でお申込みください。

●ガイドコース

【A 伊丹郷町コース】

有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム（旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅）猪名野神社など



【B 伊丹緑道コース】

猪名野神社・伊丹緑道（道）・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廃寺跡など

【C 行基の足跡コース】

昆陽池・東天神社・山陽道（西国街道）・昆陽寺など

【D 清酒発祥の地コース】

鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など

【E 市南部コース】

御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など

【F 市東部コース】

有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・伊丹スカイパークなど

私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

文化財ボランティア養成講座のご案内

当会は、平成 8 年に伊丹市教育委員会が主催した文化財ボランティア養成講座終了者有志により設立されました。現在約 40 名の会員が活動しています。会員は郷土の文化財を愛し、学び、それを更に後世に伝える取り組みをしています。また、様々な経験学習から学び得たことを広く市民に還元することを目的としています。



なお、会員には正会員と準会員があります。今年も 11 月に予定されている文化財ボランティア養成講座（全 4 回）を受講・修了すれば正会員となります。ぜひ、私たちの仲間になって活躍の場を見つけて下さい。

■文化財ボランティア養成講座についてのお問い合わせは下記まで。

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当（☎072-784-8090）